

随筆

宮川脳病院をご存知？

飯田 良樹 (久居一志地区)

最近の新聞記事に「齋藤洋一先生が院長を務める松阪市山室町の南勢病院が2023年5月19日に同市高町の華王殿で開設50周年記念パーティーを開き、地域の医療関係者をはじめ政財界人ら約60人が祝った。」と掲載されていたのをヒントに、収集した精神病院の宮川脳病院について、衛戍病院(三重医報7月号)と同様に書いた。

前置きとして、宮川脳病院が開院する3年前の1925(大正14)年に度会郡二見町に三重県当局の設置許可を得て二見脳病院の建設が進められていたが、建設に着手したものの、二見町民の大反対にあい、建設途中で頓挫した。やはり、市中に脳病院(精神病院)という住民の抵抗がある。

宮川脳病院は1928(昭和3)年10月、度会郡小俣町新川原(現・伊勢市小俣町宮前)に建設された。設立当時の伊勢新聞の記事によると、「二見脳病院とは違い、県民の喜びようは大変なものであった」というが「宮川脳病院が建設されたが、特殊な施設だけに小俣町民にとってはまことに暗い存在であった」といった記載もあった。三重県内には宮川脳病院に匹敵する規模の精神病院が他に無かったため、1934(昭和9)年に三重県立代用精神病院(私立の精神病院でも、基準を満たせば道府県立精神病院の代用ができる)に指定されることになる。1931(昭和6)年当時の敷地総面積は東京の松沢病院に次ぐ大きさを約18,000坪(約60,000㎡)。建坪は約400坪(約1,300㎡)。病室は46室で、うち普通病室13室、精神病室27室、特別病室6室。広大な患者遊歩道を有していた。1937(昭和12)年頃の入院患者は約150名であった。1938(昭和13)年に宮川の堤防が決壊し、この病院も大変な被害にあったというが、1941(昭和16)年の新聞記事では、病室7棟、食堂、上水タンク、浴槽2個、娯楽室、精米場、患者作業場、慰安殿、職員住宅などがあったと記されている。

だが、戦後の1947(昭和22)年2月に行われたGHQ

による立ち入り調査で、宮川脳病院の施設の不備や患者の栄養状態の悪さが指摘されると、三重県知事はこの病院の閉鎖を命じた。

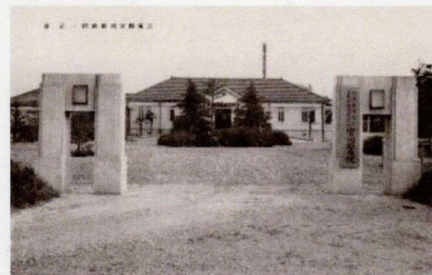
その後、1951(昭和26)年8月、法務省がこの病院の土地と建物を買収し、同年12月に宮川医療少年院が発足した。

(『小俣町史 通史編』1988年とウィキペディアを参考にした。)

以上の事を踏まえて収集した写真をみると、創立5周年記念絵葉書とあるので1933(昭和8)年の記念絵葉書で作者不明の病院全景が描かれている絵葉書と4枚の写真が入っている。



創立5周年記念絵葉書袋 絵で全景



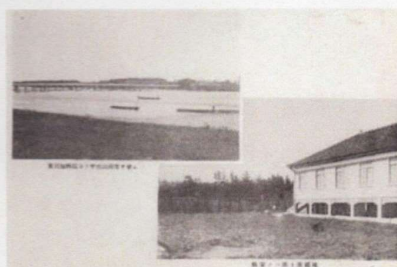
玄関



庭園



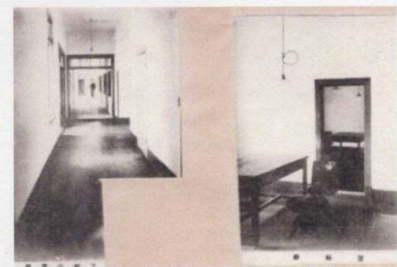
静養室



病院ヨリ宇治山田市ヲ望ム 病室の一部と遊園地



南男子精神病室



病室内廊下

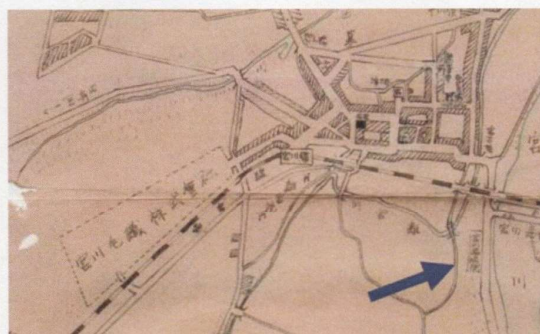


診察室

古本屋を巡っているときに、1938(昭和13)年頃に学生が制作した『我が郷土 小俣町の地理的研究』を入手した。後半のページは小俣町の絵葉書が貼ってあり、記念絵葉書4枚の写真と他の宮川脳病院の写真4枚も貼ってあった。



『我が郷土 小俣町の地理的研究』



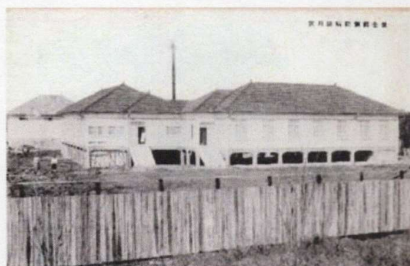
掲載されている「小俣町全圖」矢印が宮川脳病院



正面全景



宮川医療少年院を宮川堤防より撮影



側面全景

前号でも書いたが、収集した写真の歴史を調べてみると面白いですよ。